

穴栗市、誘致に成功

波賀町北部では、2000 欠かせない直線千以上のコースを9レーン設け、湖岸に階段状の観客席を整備。15カヌー会場に選ばれて以来、音水湖をカヌー競技場として活用する整備を進めている。スプリント競技に

経済効果に期待

15大学の選手ら300人滞在



ただ、最大の課題は駐車場やカヌー置き場の少なさだった。学生選手権クラスの大会には約2500人が出場し、カヌー約300艇を置く場所を確保しなければならぬ。関係者の待機場所なども必要で、湖岸に十分なスペースがなかった。県は昨年度から、同競技場の北側約4500㎡の湖岸に盛り土を行い、約60台分の駐車場を整備。湖までスロープを設け、カヌー置き場としても使えるようにした。工事完了は来年度の予定だが、現状でも利用できるため同大会を誘致した。

琵琶湖は交通の便がいい反面、霧が繁殖することが多く、パドルに絡んで有力選手が実力を発揮できないこともあったという。音水湖は水質がよく、谷あいにあるため風向きが一定で競技しやすい環境だという。

大会期間中は約15大学の

音水湖の湖畔に整備された駐車場。大規模な大会の誘致が可能になった。穴栗市波賀町引原

緑豊かな湖をイメージ 道の駅はが来月から ダムカレー販売

関西学生カヌー選手権大会が音水湖（穴栗市波賀町引原）で開催されるのに合わせ、近くの道の駅はがは8月から「ダムカレー」＝写真＝を販売する。

ご飯とコロケがダム、カレーの湖にはスナック菓子のカヌーが浮かび、周囲にはサラダの森が取り囲む。緑豊かな音水湖をイメージした箱底のような一品となっている。

大盛りを頼めばダムのご飯が大きくなる。「カヌーと胃袋で音水湖の自然を満喫してもらえれば」と同道の駅。700円（大盛りは100円増）で、人気が出れば9月以降も販売する。同道の駅☎0790・75・3711（古根川淳也）



キャンパ場のコテージなどを宿泊。地元への経済効果も期待されている。市は「競技だけでなく、大会などにも誘致し、地域づくりに役立てたい」としている。